

ランドマーク
Land Mark

日本最古の割石積み堰堤／滋賀県大津市

えんてい
オランダ堰堤



デ・レーケ銅像
オランダ堰堤のすぐそばに建つデ・レーケの銅像。日本の砂防や治山の工事を体系づけ、日本の土木事業に多大な功績を遺したことから「砂防の父」とも言われる。

“砂防の父”デ・レーケの遺産。

あなたが明治政府の「お雇い外国人」の一人として、

オランダから来日したのは、1873年でした。

その後30年にわたって日本各地であなたが

指導し建設した砂防堰堤や堤防は、

今なお立派に役割を果たし続けているものも

少なくありません。

日本最古の割石積み堰堤といわれる

「オランダ堰堤」もその一つです。

奈良時代から平安時代にかけて、

木材の伐採に伴う山の荒廃が引き起こした大洪水が、

下流の村に大きな被害を与えてきた滋賀県の田上山一帯。

明治22年、あなたの指導のもと造られたこの堰堤により、

住民はやっと洪水被害から解放され、山に緑が蘇りました。

周辺の景観に溶け込んだオランダ堰堤は、

今も人々の暮らしを守り続けています。

オランダ堰堤
明治時代に施工された堰堤のうち最も古いものの一つ。デ・レーケの影響を受けた田邊義三郎が設計に関わり施工されたことから、デ・レーケにちなんで「オランダ堰堤」と呼ばれる。1988年に大津市の史跡として認定され、翌年には日本の産業遺産300選に選ばれるなど知名度も高く、近代砂防の象徴的存在として評価されている。

- ◆住 所：滋賀県大津市上田上桐生町
- ◆諸 元：高さ7m 長さ34m



副堰堤
本堰堤の約100m下流にある副堰堤は、長さが約34m、高さが1.4m。改修前にもっと高低差があったものと推定される。